



白門板橋

1997. 8. 1 VOL.9

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部
発行 〒175 板橋区高島平4-24-5 TEL 03-3975-3330



■支部長あいさつ 新年度支部事業のスタートに際して

支部長 小日向 孝介



不肖私は、昨年の幹事会において支部長に選任され、各役員とともに前支部長・浜先輩の実績を継承してから、初めての総会を終えて新事業年度も第二四半期を迎えることになりました。

顧みますとこの一年は、引き継ぎ業務の完全実施に加え、新たな活動方針の策定など全く慌しい年でしたが、会員各位のご協力により概ね予定した事業を遂行することができました。ただ会員増強運動の展開やサークル活動の範囲の拡大等につきましては、若干課題も残されておりますので、引き続き検討していきたいと思っております。

なお本部共催による学術文化講演会につきましては、漸く総会にセットして実施できましたが、今回は長内法学部長による中央大学の現状分析と今後の問題についての貴重なお話を拝聴する機会を得ましたものの、時間の関係で小講演にとどまらざるを得なかったため、次回はその配分を十分考慮して準備したいと思っております。

さて当支部は、昭和六十三年四月に「会員相互の親睦と中央大学の興隆に寄与すること」を目的に設立され、来年は創立十周年の節目を迎えることとなります。この間東西ドイツの統一、昭和から平成へと国の内外は大きく変貌しました。明治二十一年、神田錦町において誕生した中央大学も、昭和六十年に八王子キャンパスにおいて百周年を祝いました。この機会に過去十年を謙虚に回顧するとともに、新たに二十一世紀に向けた支部の展望を考えたいと希い、本部の了承を得て「板橋区支部創設十周年記念事業」を実施することに決定いたしました。全会員がこぞって本記念事業の趣旨に賛同いただき、積極的に参加下さいますようお願い申し上げます。

支部ニュース

目黒支部と高で観桜会

去る四月十二日(土)の午後、春のイベント・花見会を行った。

手際よく準備した幹事さんの心も知らず、大自然の気まぐれで十日も早まった桜の開花で、この日はとつくに葉桜と化した隅田川沿



宴たけなわ(屋形船船内を撮す)

いの桜並木を恨めしく眺めながらゆつくり川面を流れる屋形船での観桜会となりました。

昨年の観桜会で交流を開いた牛久白門会の幹部の方々をゲストに招き、目黒支部の学員九名が合同して、総勢四十四名の大所帯となりました。

午後三時四十五分、神田川の船着き場を出発した屋形船は、隅田川の岸辺に西陽を浴びて輝く名残の葉桜を眺めながら下り、東京湾に出る頃には新鮮な刺身の盛り合わせに、次々に運ばれる天ぷらに舌鼓をうち、船の揺れも手伝って早々にでき上がりしました。かごめの出迎えを受けて、レインボー・ブリッジを潜るとお台場です。

フジテレビの正面、静かな入り江に錨を降ろし、目黒支部と合同で「模擬結婚披露宴」の余興を菅氏の司会で執り行ない、宴は頂点に達しました。

五時を少し回った頃、錨を上げて帰路につきましたが、無論船内に備えつけのカラオケは、空くことなくフル稼働しました。隅田川を上るとき、恒例となった母校の応援歌↓校歌↓惜別の歌を全員肩

を組み、メドレーで合唱し、「花より船」の江戸情緒を堪能した楽しい集いでした。

(このニュースの詳細は、五月二十五日発行の『中央大学学員時報』に掲載されています。)

秋の旅行は伊豆に決定

恒例の秋の旅行は、伊豆・長岡温泉に決まりました。

場所柄、新鮮な海の幸を存分に賞味できると思います。日程等は次のとおりです。今からカレンダーに二重丸をつけて、日程を確保し、一人でも多くの方が参加されますようお願い致します。

詳細は追ってご案内致します。
日時：十一月二十九日～三十日
会費：二万七千円
旅行地：伊豆・長岡温泉(バス)

お問い合わせ先

池田巨利

☎〇三―三九三八―四〇九八
三宅正代

☎〇三―三九五五―四九六九

森英正氏が

東京都板橋区公文書公開及び個人情報保護審査会委員に



板橋区に今年度から新設された表記の委員に支部会員の森英正(昭32法卒・

副支部長)氏が、その豊富な職務経験と業績を買われて委員を委嘱され、四月一日就任しました。

区民に目を向けた開かれた区政の一翼を担う、同氏の活躍を期待したいと思います。

日下部逸男氏

秋の叙勲で勲四等を下賜される



恒例の秋の叙勲(平成八年)で、支部会員の日下部逸男(昭21法卒・幹事)

氏が、永年厚生行政に尽力された功績により、勲四等旭日小授章を下賜されました。

おめでとうございました。

平成九年度総会

中央大学学員会 板橋区支部



総会の議長をつとめる小日向支部長

第九回・定時総会を開く

支部創立十周年記念事業の骨子なども決議

平成九年六月二十八日(土)、板橋区立文化会館大会議室を会場に、午後六時から第九回・定時支部総会が開かれました。

当日は台風八号のため悪天候に

も関わらず、七十五名の会員が出席して定刻に開会され、六議案が原案どおり承認可決されました。総会終了後に、母校・中央大学から来賓としてお越し頂いた学員会本部役員で法学部長の長内教授による母校の現況と将来の問題について小講演をいただきました。

記念撮影を経て、西崎為二(常任幹事)先輩の音頭で乾杯して懇親会に移り、和氣あいあいに親睦を深めました。恒例となった新入会員の自己紹介をする頃には、雨中を駆けつけた者も出揃って出席者もピークに達し、歓談の輪は次第に大きくなり、外の台風も忘れたひとときでした。締めくくりは、恒例になった母校応援歌、校歌、惜別の歌に中大節を加えたフルセットを全員が肩を組んで合唱して散会しました。(池田記)

■議事内容は次のとおりです。

第一号議案

平成八年度事業報告(八年四月一日〜九年三月三十一日)

(片桐事務局長から)

八月二七日 板橋区立文化会館六四名
(成増アクトホール一〇名)

八月二〇日 幹事会
(南常盤台集会所 四二名)

九月二日 役員会
(小日向事務所 三名)

九月三日 第四回ゴルフ大会
(森林公園ゴルフ倶楽部 七名参加)

九月二七日 役員会
(支部事務所 七名)

十月二九日 学員会主催囲碁大会
(中大記念館 六名)

十一月八日 役員会
(支部事務所 二二名)

十二月七〜八日 秋の旅行会
(バスで四万温泉・積善館へ 二九名参加)

十二月二日 囲碁会定例・懇親会
(成増アクトホール及び成増飯店 一〇名)

▼平成九年

一月二日 新年会
(板橋区立文化会館七一名)

二月二日 囲碁会定例会
(成増アクトホール一〇名)

二月八日 常任幹事会
(支部事務所 一九名)

六月二日 正副支部長会
(常盤台集会所 六名)

六月三日 定時総会及び懇親会

▼平成八年

四月二日 囲碁会定例会
(成増アクトホール 九名)

四月二〇日 正副支部長会
(常盤台集会所 五名)

四月二日 会計監査
(常盤台集会所 六名)

五月二日 会計監査
(常盤台集会所 六名)

五月五日 囲碁会臨時会
(西池囲碁サロン 一〇名)

五月七日 幹事会
(南常盤台集会所 三三名)

六月二日 囲碁会定例・懇親会
(成増アクトホール一〇名)

六月五日 成増飯店
(成増飯店 一〇名)

六月二日 正副支部長会
(常盤台集会所 六名)

六月三日 定時総会及び懇親会

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
年会費	660,000	558,000	▲102,000	3,000 × 186
総会会費	600,000	448,000	▲152,000	6,000 × 64
旅行学生会費	600,000	983,000	383,000	32,000 × 29 寄付金 ¥55,000
新年会会費	480,000	426,000	▲54,000	6,000 × 71
常任幹事会会費	50,000	13,000	▲37,000	1,000 × 19
幹事会会費	120,000	136,000	▲16,000	2,000 × 33 2,000 × 35
寄付金	50,000	60,000	10,000	総会、新年会
受取利息	5,000	1,306	▲3,694	
本部交付金		45,000	45,000	5.4.30
前年度繰越金	1,211,814	1,211,814	0	
計	3,776,814	3,888,120	111,306	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
総会会費	600,000	376,944	▲223,056	文化会館 8.6.23
旅行学生会費	600,000	1,001,913	401,913	四方温泉他8.12.7-8
新年会会費	480,000	398,847	▲81,153	文化会館 9.1.24
常任幹事会会費	50,000	19,000	▲31,000	支部事務所9.2.28
幹事会会費	120,000	138,290	▲18,290	8.6.7.8.30 会報
広報制作費	120,000	156,481	35,481	
印刷費	60,000	89,357	29,357	
通信費	160,000	192,280	32,280	
会議費	50,000	23,715	▲26,285	
会議会場費	80,000	81,150	▲1,150	
事務所費	60,000	60,000	0	
事務用品費	20,000	42,209	22,209	
慶賀交際費	50,000	10,000	▲40,000	香典
同好会補助費	50,000	32,600	▲17,400	田楽、刀刀部
雑費	5,000	9,090	4,090	
予備費	1,271,814	1,256,244	▲15,570	当期剰余金¥44,430
計	3,776,814	3,888,120	111,306	

貸借対照表

中央大学学生会東京板橋区支部 (平成9年3月31日現在) (単位:円)

資産の部			資本・負債の部		
科 目	内 訳	金 額	科 目	内 訳	金 額
現金	手許在庫	32,848	繰越剰余金		1,211,814
普通預金	住友銀行・常盤台	50,051	当期剰余金		44,430
普通預金	第一勧業・成増 (1718679)	551,830			
郵便貯金口座	(8-563929)	293,960			
郵便定期貯金	(3728043)	72,000			
郵便定期貯金	(3728043)	23,000			
投資有価証券	岡三証券金貯蓄	132,956			
計		1,256,244	計		1,256,244

第二号議案
平成八年度・収支決算報告並び
に監査報告
(自八年四月一日〜九年三月三十
一日)
坂井会計から報告の後、岩澤会
計監事の監査報告がり、次の原案
どおり承認可決されました。

第三号議案
平成九年度・事業計画(案)
片桐事務局長の説明で、次の原
案どおり承認可決されました。
一、会員の拡充・強化
二、親睦会の開催
1 観桜会(学生会本部)

四月、実施済
2 旅行会(伊豆長岡)
十一月二十九日(土)
三十日(日)
3 新年会
平成十年一月
(会場未定)
三、同好会活動の促進
1 花見ハイク・食へ歩き

(屋形船・実施済)
2 囲碁会
3 ゴルフ・コンペ
4 カラオケ同好会
四、広報
『白門板橋』発行
*現在、第九号の原稿を取
りまとめ中であること。
五、十周年記念事業の計画案
・記念講演
・記念祝賀会
・支部功労者表彰
・記念誌の発行
・会員名簿の発行 他
(次頁へ続く)

以上の通り決算報告いたします。
平成九年四月二十五日
支部長 小日向孝介
会 計 坂井健二 久米英雄
以上、支部の決算につき監査の結
果、適正かつ適法に表示している
と認めた。
平成九年四月二十五日
監事 栗原泰房◎ 水野公一◎
監事 岩澤忠弘◎

【 取 入 の 部 】 (単位：円)

科 目	金 額	備 考
年会費	600,000	3,000×200
総会費	480,000	6,000×80
旅行会費	810,000	27,000×30
新年会費	480,000	6,000×80
常任幹事会費	50,000	2,000×25
幹事会費	160,000	(2,000×40) ×2
寄付金	50,000	
受取利息	5,000	
前年度繰越金	1,256,244	
計	3,891,244	

【 支 出 の 部 】 (単位：円)

科 目	金 額	備 考
総会費	480,000	6,000×80
旅行会費	810,000	27,000×30
新年会費	480,000	6,000×80
常任幹事会費	50,000	
幹事会費	160,000	(2,000×40) ×2
広報作成費	120,000	
印刷費	90,000	
通信費	180,000	
会議費	50,000	
会議会場費	80,000	
事務所費	60,000	
事務用品費	30,000	
慶弔交際費	50,000	
同好会補助	50,000	
雑費	10,000	
10周年記念準備費	200,000	
予備費	991,244	
計	3,891,244	

創立十周年記念事業の実行委員会が組織され、実行委員長以下、各委員がつぎのとおり委嘱されました。(組織図は掲載略)

(敬称略・順不同)
 十周年記念事業実行委員会
 委員長……小日向孝介
 副委員長……森 英正
 同 栗原泰房
 同 岩澤忠弘
 同 西崎為二
 同 関 正夫
 同 清水治夫
 同 依田敬一郎
 同 関上裕次

委員……巨勢典子
 同 高橋 淳
 同 久米英雄
 同 岡田利彦
 同 杉本和久
 同 小宮 仁
 協力員……幹事全員

編集委員……○平山惟美
 同 池田亘利
 同 栗原二郎
 同 中三川孝幸
 同 三宅正代
 注……総務担当以下の○印は、責任者を示します。

第四号議案

平成九年度・予算(案)

坂井会計から一部補足説明を加えた説明があり、左の原案のとおり承認可決されました。

第五号議案

幹事一名補欠選任の件

議長が議案内容を説明した後、選任方法を場内に諮ったところ議長に一任され、議長が候補者として平山惟美(33経)氏を推薦し、満場異議なく幹事に選任されました。

なお任期途中で選任されたため、同氏の任期は一年となります。

第六号議案

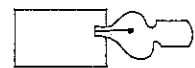
その他

決議事項なし * 以上

■会費の納入について
 おねがい
 * * *
 総会に欠席され、また会費を未納の方は、同封致しました振込用紙でお振り込み下さるようお願い致します。
 *
 会費は年額 三〇〇〇円
 です。

忘年の旅日記

豊かな自然と人情の残る上州路を訪ねて



支部恒例の行事となった旅行会も数えて八回目を迎えた昨年の秋、紅葉の絶好期をやむなく見送りカラツ風の吹き始めた師走のはじめに、忘年会を兼ねた一泊二日の日程で上州路を訪ねました。澄みわたった初冬の上州には、素晴らしい自然と芸術の香り高い地場産業があり楽しい旅でした。（この記事は、一月二十五日発行の『中央大学学員時報』に掲載されたものを加筆して再掲します）

■初日（十二月七日・土）晴

数日前まで、巾着状に南下した寒気が日本列島を覆って懸念されていた天候が、この日はウソのように晴れ上がり時刻を少し遅れて常盤台を出発したバスに、高島平駅前で参加者全員が集結し、関越道を一路上州めざして快走した。

赤城・榛名山の優雅な姿に歓迎される頃、一行二十七名は豪華なサロン・バスにゆったり座席をとって、早々に車内パーティーで乾

杯のラッシュユ。すっかりでき上がった一行が最初に見学したのは、「吹き割りの滝」。地元の小学生がボランティア活動で清掃する急な階段を滝へ降り、凍結した路面に気を配りながらの滝見物だったが、豊かな水量を一気に飲み込むクレバス状の滝は圧巻で、心が洗われた。続いて川場村に地酒『誉

国光』の酒蔵を訪ね、利き酒と酒蔵直営の美術館で児童画と書を鑑賞して、またまた心を洗う。

木の香りが残る酒蔵を模した食堂の囲炉裏で、うどんすきと弁当の野趣あふれる昼食。食後の買い

物を楽しんでから、川場村中之条の山間の路を快調に走り抜けて宿の『佳松亭・積善館』にチェック・イン。

『積善館』（旧館）は、元禄四年に湯治場として創業したといわれるだけに、歴史が刻まれた古風な建物に岩風呂（混浴）と元禄風呂があつて、まさに元禄時代にタイム・スリップできる。『佳松亭』は、現代の建築技術を駆使した諸設備のなかに、伝統を感じさせる純和風の内装を施した寛ぎを感じさせる建物だ。この新旧二つの建物は、迷路のような長い廊下で

連結していて、新旧四つの名湯を梯子でできる楽しみがあつて、宴会前の時間を持て余すことはない。四万（多くの）の病に効くといわれる名湯に存分に暖まって、全員が浴衣姿で臨んだ宴会は、改選されて就任した小日向孝介新支部長の挨拶に始まり、新役員の紹介と出席者全員が自己紹介の後、参加者中の最長老・西崎為二（昭和九年卒）先輩の音頭で乾杯。

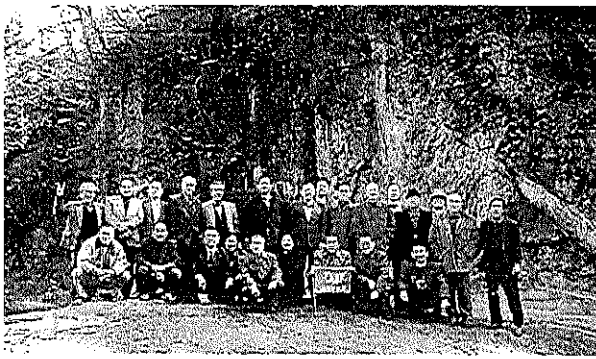
次々に運び込まれる料理に舌鼓を打ちながら歓談する中、司会者不在にもかかわらずカラオケ大会に移り、頂点では西崎長老が孫のような年齢差の女子会員とチーク・ダンスを楽しむ一幕もあり、和気藹々の忘年宴会となった。

宴たけなわでのお開きに名残を惜しむグループは、部屋に戻ってからも乾杯を繰り返し、夜の更けるのも忘れて痛飲し、交流を深めたのはいうまでもない。

■二日目（十二月八日・日）晴

* *

早朝、ガラス戸越しに風花が舞って心配された天候も、出発する頃には、すっかり晴れ上がり定期



「吹き割りの滝」の見学を終えて



楽しい宴……(於：佳松亭)

に玄関前に集合し、記念撮影をして出発。

榛名山の麓に昭和六十二年に開業したと言うガラス工場を見学して見聞を広めた後、中大の学員が経営する売店では、高価なガラス工芸品から手軽なモーニング・カップの類までのガラス工芸の美を十分堪能した。眼の保養にはなつたものの買い求めた者が少なかつたのは、欲しいと思う物は値段もよく、重量があり、その上に持ち

帰る途中で壊してしまう危険を感じたためだろうか……。それにしても、まだ歴史の浅い地場産業ながら着々と技術を磨いて、小樽の「北一ガラス」にも迫る成長産業と感じたものである。

同じ榛名山の麓を東へ数キロほど移動したところに、千手観音を祀る水沢観音を詣でた後、有志が有料で鐘を力一杯ついで、復路の交通安全を祈願した。このときがちょうど昼食どきで、時間を調整

してから道を隔てた向い側のレストランに入り、地元では名物という「水沢うどん」で昼食。無論、うどんで済むはずもなく、幹事さんの配慮で地酒も配られ乾杯。腰のあるうどんは、稲庭うどんにも似てなかなかの味。さすが上州名物とうたうだけの美味しい昼食だった。腹ごしらえした一行は水沢観音下に入り、「創作の館」と銘打ち、これもまた地場産業としてすっかり定着した「卯三郎けし」工場を最後の見学地を選び、

子こけしに匹敵する人形として、メジャー級にまで成長し、地場産業からまさに全国区のブランドになろうとしているようで、近いがために関東一円には知名度が低いのが何とも不思議な気がした。ガラス工芸といい、こけし人形といい、上州には豊かな自然に育まれた郷土色豊かな手作りの産物があつて、蒟蒻や椎茸などと一緒にかばん一杯買い求めて、帰途に着いた。

(平山記)

見学。さながら工場の野外研修で原材料の打ち抜きから絵つけ塗装・組立てと完成するまでの全工程を、係員の説明を聞きながら見学することができ、誰もが納得した顔付きだった。

職人芸ともいうべき加工技術に魅せられた一行は、何よりの購買意欲をかきたてられ、隣接する売店では多くの土産品を買い込めるので、時間が不足した様だった。

「卯三郎けし」は、戦後現社長が、この地で生育した桑や花梨を材料に、渋川で人形づくりをしたことに始まり、およそ五十年の歴史があるが、現在では東北の鳴



2日目朝、佳松亭を背に記念撮影

『板橋区支部十年の歩み』原稿募集！！

来年四月で支部創立十年を迎える我が板橋区支部は、去る六月二十八日に開かれた平成九年度の定時総会で、節目の年を記念する事業のひとつに「十年の歩み」(仮称)を編纂・発行することが決議されました。新たに設置された編纂委員の手で、既に作業もスタートしましたが、記念誌は総員が参加する紙面づくりをめざしておりますので、広く会員の皆様に寄稿をお願い致します。

■原稿募集要項

*

一、テーマ

「板橋区支部創立十年に思うこと」

二、文字数

四〇〇字原稿用紙で二枚以内

三、締め切り

平成九年九月二十日

四、送付先

板橋区高島平4-24-5

中央大学学員会

東京板橋区支部気付

「十年史編纂委員会」宛

注：原稿の校正は編纂委員会で

責任をもって行ないます。

なお寄稿いただいた原稿は

■記念誌の編集概要

(掲載順不同)

- 口絵：…支部定時総会他
- 発刊にあたり：…支部長
- 祝辞：…中央大学総長他
- 祝辞：…北区他、隣接支部長
- 祝辞：…板橋区長
- 祝辞：…前板橋区支部役員他
- 会員投稿原稿：…公募
- 座談会：元板橋区支部役員他
- 板橋区支部規約
- 板橋区支部歴代役員一覧
- 会報『白門板橋』保存版
- 会員住所録(ブロック別)
- 中央大学・校歌の変遷他
- 略年表

■お願い

*

板橋区支部十年の歴史に関する資料(写真等、記念になるもの)をお持ちの方は、編纂室宛ご一報下さるようお願い申し上げます。観桜会や各種レクリエーションの写真など、個人で撮影されたものは貴重な資料になりますので、ぜひご協力ください。

(十年史編纂委員会)

白門Q&A

■南甲倶楽部

母校：中央大学学員会の組織の中に、『南甲倶楽部』という団体がある。倶楽部という三文字から体育会のOB組織と思いきや、財界で活躍する中大卒業生の親睦団体である。しからば、なぜ南甲なのか？と、そのネーミングに疑問符を投げたくなるのが人情である。

母校創設の地は、神田錦町であることは誰もが知るところだが、手狭になった錦町から大正十四年に神田区南甲賀町の戸田伯爵邸を買い求め、翌十五年に移転。昭和八年に駿河台三丁目へ編入された。この地には江戸時代幕府に仕え、火消同心を勤めた甲賀衆が多数住んでいたということに因んでの名称といわれ、現在のお茶の水駅一帯を北甲賀町といった。(中三川記)

司馬文学拾い読み

なぜ学員なのか?



作家・司馬遼太郎の『街道をゆく』三十六(神田界隈)に面白い話を発見した。

原文の終り近くに「如是閑のと」の中から引用すると、

くさきの記念館にもどる。喫茶室でコーヒを飲んでみると、村井重俊氏(編集者)が、どこでもらってきたのか、

「中央大学学員時報」という新聞を私にくれた。タブロイド版十二ページで、発行所はこの建物のなかの学員本部事務局である。

まず学員という言葉がわからなかった。新聞の内容から察して卒業生のことらしいが、ふつう卒業生なら、校友・学友という。

「英語のフェローの翻訳かな?」

と、村井氏に同意を求めると、この人も首をひねっている。この人は早稲田の出身だが、そこでは

使われていないという。写真家の長谷忠彦氏は法政の出身だが、この人も知らないという。

英語のフェロー(Fellow)は、卒業生から選ばれた評議員あるいは特別研究生をさしていて、誰もがなれるというものではないが、この新聞で使われている学員は、卒業生や職員のすべてをさしているようである。

帰宅して辞書を幾種類かひいてみたが、出ていなかった。ところが、長谷川如是閑の『ある心の自叙伝』に出ていたのである。

法学院の職員や出身者は、年一回学員会という懇親会をする。いつも上野の松源でする。例だったが…。

以下略

だから、明治二十年代に、すでにこの学校では「学員」が使われていたことになる。

学員という、世間通用のことばでない用語を、言葉にやかましいはずの如是閑が、注釈もなしにすらすらと使っているのが、何やらおかしかった。

我々の中央大学学員会東京板橋区支部の名称も第三者に説明するには技術を要するが、これからは含蓄のある説明ができそうだ。学員の二文字に含まれる百年の歴史を思うとき、少しばかり胸を張って歩いてみたくなった。中大の学員が司馬文学を拾い読みすると、何とも面白い話がいっぱいある。



大先輩である長谷川如是閑は、明治八年生れのジャーナリストで日本新聞、朝日新聞で記者として活躍した。大正八年に大山郁夫らと雑誌「我等」を創刊し、評論家としても活躍した。昭和二十三年には文化勲章を授与されている。本学の前身、東京法学院を明治三十一年に卒業している。(平山記)

中大出身大相撲力士 名古屋場所番付表

玉春日関が関脇に出世



- ▽玉春日(片男波) 西関脇 本名・松本良一 H6
- ▽出島(武蔵川) 東前頭4 本名・出島武春 H8
- ▽武哲山(武蔵川) 幕下西2 本名・栗本剛志 H5
- ▽中尾(松ヶ根) 幕下東15 本名・中尾浩規 H7

本学出身の大相撲力士後援会は、学員会本部内にあります。詳細は学員会本部にお尋ね下さい。

(栗原記)